



## 本州最北端リブランディング事業

コンソーシアム名：大間埼灯台利活用コンソーシアム

対象灯台：大間埼灯台（青森県大間町）

# 調査検証報告

# 大間埼灯台（青森県大間町）

## 本州最北端リブランディング事業

コンソーシアム名

大間埼灯台利活用コンソーシアム

構成団体

一般社団法人海と大間の未来づくり隊、Yプロジェクト株式会社、  
釣り船 青龍丸（合同会社ARAYA）

### 1.調査・検証概要

#### 調査検証を構想した背景

- 白黒模様が象徴的な大間埼灯台は、景勝地・大間埼のシンボルとなっているが、「風景として楽しむ」という限られた活用しかされていない。
- 漁業者以外の一般の町民と灯台の接点はなく、大間町のシンボリックな建築物であると認識していても、その歴史や価値、社会的な重要性などについて知る機会がない。
- 大間埼の沖合にある弁天島に立地しているため、船でしか行けないというハンディを逆手に取った活用法を見出したい。



### 2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

<関係者のWSを踏まえて、事業計画書を軌道修正>

大間埼灯台は、大間埼からさらに北に立地する弁天島にあることを利用

「本州最北端の地」大間埼とともに、大間埼灯台のある「本州最北端の島」としてPRして、話題性と相乗効果を狙う

- ① 「本州最北端の島」に到達したい
- ② 「本州最北端の島グッズ（灯台に絡むもの）」が欲しい
- ③ 「本州最北端の地」に加えて「本州最北端の島」もあるなら、大間埼にもう1度行ってみたい

## survey 01

## 大間埼灯台の基礎調査

基礎データ、設置された経緯、関係者インタビュー

## survey 02

## 連携や事業化の可能性調査

- ・関係者でのワークショップ⇒2回実施  
メンバー：大間埼事業者、漁業関係者、遊漁船事業者、大間町、サコダデザイン(株)
- ・1回目(検証事業前)：事業規模や実施体制、連携やサポートの可能性について検討
- ・2回目(検証事業後)：事業化に向けた課題整理と事業化スケジュールの検討

## survey 03

## 灯台ウォッチングクルーズの開発と収益事業化検証

- ・大間埼で受付⇒徒歩10分の漁港(カラスの間) 発着  
徒歩移動を入れて、約1時間のクルージングプログラムを開発
- ・連携漁業者2~3隻を開拓
- ・モニター(対象：ジオパークガイドの会)⇒2クルーズ実施  
本実施(9月14日~16日、大間埼での集客)：4クルーズ実施

## survey 04

## 灯台グッズの開発と商品化検証販売

- ・グッズ開発：3種類  
しろくろ灯台サイダー、灯台缶バッジ、しろくろTシャツ→しろくろタオル
- ・キャンペーン期間：9月14日~10月31日に設定  
協力事業者の店舗、関連イベント、事務局通販サイトにて、テスト販売を実施  
灯台とシンクロ写真のSNS拡散

## survey 05

## 突端フェスの試験実施による収益事業化検証

- ・キャンペーンの皮切りとして、9月15日に開催
- ・和太鼓演奏や吹奏楽部の演奏、大間小唄の流し踊り、マグロ漁師デュオの海歌ほか
- ・同時開催：灯台クルーズ、灯台グッズの販売、フード提供(連携店9店、大間牛串焼き)  
レストハウスでの灯台関連資料の展示
- ・来場者：約300人





おおまさき

## 大間埼灯台

基礎  
データ



初点灯	大正10年（1921年）11月1日
灯台の高さ	25m
灯りの高さ	36m
灯質	群閃白光 毎18秒に3閃光
光達距離	約22km
レンズ	LED灯器
構造	コンクリート造
形状	白地に黒横帯2本搭形
設計者	不明

### 設置された経緯



大間町周辺の海は、夏は濃霧を生じ冬は西風が強く、猛吹雪・大暴風雨となる。大間埼から北に600mの弁天島沖は、太平洋と日本海との唯一の通路である津軽海峡のほぼ中間にあり多くの船舶が通航するが、とりわけ潮流が激しく暗礁が散在するため、島に乗り上げる事故が多発。江戸時代にも外国の商船がよく沈没する危険地帯であった。海難事故を未然に防ぐため、大正9年(1920年)、弁天島で建設工事に着手、翌10年に初点灯。

### 関係者インタビュー（抜粋）



海保OB  
大間埼灯台勤務  
経験者  
**中川隆司さん**

大間埼、尻屋埼、むつの事務所を1週間ごとに回る勤務で、ここが初任地。弁天島では雨水を溜めて使っていたが、水不足になると1週間も風呂なし。ゲンベイ礁灯標の点検時は、用弁者の菊池政二さんの船から飛び移る、危険な作業。青森海保勤務時代に点灯100周年を祝い、率先して弁天島の草刈りした姿が写真に。



灯台守「用弁者」  
菊池政二さん孫  
**菊池武一さん**

祖父は1958年から灯台が無人化するまでの1991年まで、「用弁者」として灯台守たちの離島暮らしを支えてきた。だから葬式には世話になった当時の職員さんたちが大勢来てくれた。人命救助にあたることもあり、感謝状が山のようにある。海保長官が視察に訪れた時は、自分が弁天島まで乗せていった。

# 国際海峡の安全を守り続ける 白黒と赤が、最強バディ

江戸時代には、外国の商船がよく沈没した青森県大間沖。弁天島周辺は、とりわけ潮流が激しく暗礁が点在する危険地帯です。海の安全を弁天様に祈るしかなかったこの島に大間埼灯台が誕生したのは、大正10年のこと。以来、対岸の北海道までわずか17.5キロという、過密な国際海峡の安全を、灯台と守護神のバディで守ってきました。過酷な離島暮らしを耐えてきた灯台守たちと、それを支えてきた漁民との二人三脚のドラマもありました。



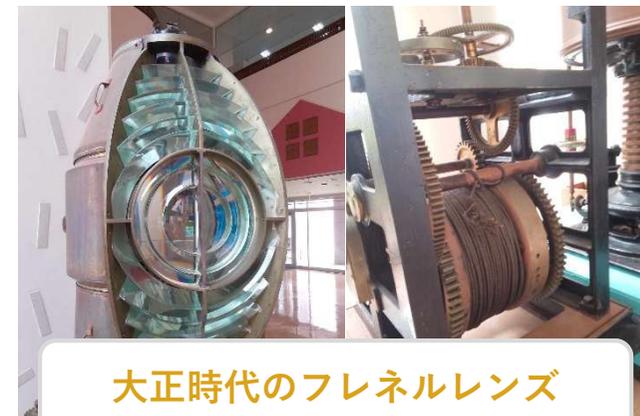
灯台を支えた町民の存在

- ・昭和32年から菊池政二さん(故人)が、「用弁者」となって自らの漁船を使い、職員たちの陸との行き来や灯標の点検、過酷な島での暮らしを支えた。
- ・海保長官自ら大間に出向いて視察が行われ、昭和59年には感謝状が授与された。



大間崎灯台経験者がむつ市在住

- ・大間崎灯台が初任地となって昭和57年4月～61年3月まで勤務した海保OBの中川隆司さんが、むつ市在住だった。
- ・菊池政二さん、孫の武一さんのことも覚えていた。
- ・点灯100周年の横断幕を自宅に飾るほどの灯台愛。



大正時代のフレネルレンズ

- ・大正10年の初点灯から平成11年まで働き続けていた第四等水銀槽回転式フレネルレンズが、大間町の北通り総合文化センターに展示されている。
- ・遠方の資料館に行ってしまうはずのレンズを、大間に残すよう働きかけた海保OBの熱意のドラマがあった。



弁天島愛が溢れるマグロ漁師

- ・菊池政二さんの孫にあたる菊池武一さん(兄・写真左)、正義さん(弟・2024年初競り一番マグロ漁師)はともにマグロ漁師。
- ・兄は政二さんを手伝った経験あり、弟は灯台や弁天島に親しんで育った。マグロの漁期をうまく避けられれば、協力が得られる。



漁船クルーズは可能性あり

- ・4クルーズ17名参加(千葉3、県内5、むつ・大間9、報道3)：灯台マニア、むつ市のホテルで紹介された方、漁船に乗ってみたい
- ・手軽に参加できる特別体験として、満足度高い。
- ・波がかかることがあったが、むしろお客さんたちは喜んでた。



灯台ではなく、まずマグロ

- ・大間崎の来訪者は、まずはマグロを食べたい。灯台のイメージが薄い。
- 灯台(弁天島)切り口のフードやグッズは、難易度が高い。
- ・大間崎で予定している滞在時間が短い。
- ターゲットの検討が必要

## 課題

弁天島漁船クルーズ(灯台ウォッチングクルーズ)の  
効果的な集客と運営体制を確立する

- 【集客】当日、大間崎で受付→通りすがり客はつかまえずらい、午後はほぼ集客できず(日帰り客の帰りコースのため)  
 【内容】1時間のプログラム(大間崎から漁港までガイドしながら徒歩10～15分+30分クルーズ)→徒歩が厳しい、1時間は長い
- ・1人2000円(ガイド付)、定員(7名)→収益が上がらない
  - ・出航可否の判断は、当日でないと厳しい
  - ・大間崎からもクルーズ中だとわかる装飾が必要
  - ・弁天島への上陸ニーズに応じられるか



## 施策

## 収益化をはかるためのコンテンツの磨き上げ

- 【集客】宿泊施設などとの連携し、事前申込にする。当日、運航中かどうかがわかる立て看板、ネット広報  
 【内容】漁船乗り場に集合解散で、40分くらいのプログラム(簡易ガイド、定員を増やすかを検討)
- ・スプラッシュを楽しませるエンタメ化(白黒カップ着用、船長アナウンス)
  - ・マニア向け灯台ディープツアーの開発：海保OBの中川さんガイドで弁天島に上陸、尻屋崎との連携
  - ・最低でも2隻体制を目ざす

## 課題

大間崎での灯台イベント(突端フェス)の  
実施方法、運営体制の見直しが必要

- ・実施時期：9月15日→マグロ漁最盛期前のギリギリの実施だったが、周知期間が短すぎた
- ・スタッフ不足、大間崎の事業者がスタッフになるのは厳しい
- ・強風の中の実施→雨天、悪天候対策が必要
- ・会場にフェス感が不足していた
- ・観光客向けか、町民向けかがはっきりしなかった



## 施策

## 行政予算でのイベント実施の可能性を探る

大間崎での新たな集客イベント(観光客向け)として、行政予算で実施するやいなや、令和7年度の大間崎活性化協議会で検討してもらう。

## 課題

灯台(弁天島)切り口のグッズ開発のハードルは高い  
灯台フードメニューの需要が薄い

- 【開発アイテム】灯台サイダー(津軽海峡の塩入り)、灯台缶バッジ、白黒タオル→ビジネスとして成立する収益力のある商品が、開発できなかった
- ・「本州最北端」「マグロ」を期待して大間崎に来訪するお客に、「灯台」切り口は刺さりずらかった
  - ・既存メニューが人気のため、わざわざ灯台メニューを作る必要がない



## 施策

「燈の守り人」キャラクターの活用  
クルーズ体験とのセット販売品の可能性を探る

- ・「灯台」切り口の独自商品は開発せず、「燈の守り人」とのコラボ商品の開発を検討。アニメキャラクターや声優の起用の話題性との相乗効果を狙う。
- ・灯台クルーズ体験との抱き合わせで購入したくなる記念品、グッズ、おみやげ品として企画、開発する。



# 調査検証をふまえた 今後の展開案

## 事業背景1

### ポテンシャル

- 海域を知り尽くしたベテラン漁師の漁船でしか体験できない灯台クルージングは、特別感が強く、新たな観光体験コンテンツとして集客力が見込める。
- 灯台をテーマとしたクルージングの成功例が少ない中、地理的なハンディのある灯台の新たな利活用モデルの先駆けとして、話題性が見込める。
- 灯台クルージングが事業化できれば、ベテラン漁師や遊漁船事業者に新たな副収入がもたらされる可能性がある。

## 事業背景2

### 私たちが取り組む理由とねらい

- 離島にある大間埼灯台の利活用は、今まで誰もなしえなかった。「船でしか行けない」というハンディを逆手に取って、「船だからめっちゃくちゃおもしろい」新たな体験コンテンツを創り出す。
- 企画・宣伝事業者と漁船運航事業者がコンソーシアムを組んで、灯台クルーズを収益ビジネスとして成立する持続可能な体験商品に磨き上げ、灯台の価値を広く発信する。
- クルーズ事業は、大間埼の既存事業者とのバッティングを避けることができる新しい切り口のビジネスとなる。既存事業者と共存、連携をはかっていく。

## 事業概要

### 事業名 日本一おもしろい 灯台クルージングの開発と収益化

潮流が激しく暗礁が点在する海域をクルーズして海に生きる漁師の目線で灯台を味わう漁船ならではのリアルクルーズのエンタメ化に挑戦。話題づくりのために、メディア向けのファミツアーを実施。物販によって収益性を高めるため、オリジナルのお守りや乗船記念グッズも開発。



## 事業名：日本一おもしろい灯台クルージングの開発と収益化



### 熱源となる人たち (核となる主体者)

#### Yプロジェクト(株)

「弁天島参拝クルーズの開発と収益事業化検証」を行った。検証に基づき、集客力のある体験型商品の開発と収益化に挑む。

#### 春漁丸

クルーズ漁船の運航者として、検証事業に関わった。Yプロジェクト(株)と二人三脚で、灯台クルーズの磨き上げを行う。



### 熱源を支える人たち (その他の主体者)

#### 釣り船・青龍丸

クルーズ船運航に関わる技術的なアドバイス、運営のサポート、新規事業者の開拓を行う。

#### (一社)海と大間の未来づくり隊

行政や観光協会、漁協、大間崎の事業者などとの調整役となる。

#### サコダデザイン(株)

灯台クルーズをプロモーションする際のツール作成などコミュニケーションデザインを担う。



### 協力者

#### 中川隆司さん（海保OB）

灯台勤務経験者としての情報提供、ガイドなど

#### 菊池武一さん・正義さん（漁師）

漁業者としての情報提供など

#### 近隣の宿泊施設

チラシなどの設置、参加予約の取次など

## 事業名：日本一おもしろい灯台クルージングの開発と収益化

新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、本事業は以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
✓	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

# 調査検証資料

※全ページは、[別添参照](#)

【受付】※スタート10分前

- ・個人カードに名前などを記入してもらおう  
(連絡先電話は、自分の携帯+家族などの緊急連絡先)
- ・「ここから歩いて10分くらいの漁港から出発します  
約1時間トイレがないので、トイレを済ませて  
集まってください」
- ・子ども：小学生以上 ※救命胴衣を付けられる子ども
- ・ハイヒールの方は、お断り
- ・ミニスカートは厳しい  
(座席にまたがって座ってもらうため)



Q大間埼灯台に職員(灯台守)がいたのは、いつ頃まで？

- ①昭和52年
- ②平成3年
- ③令和元年



17.5キロしかない国際海峡  
1日あたり大型船35隻が  
行き交う過密航路



初代の大間埼灯台（燈光会提供）



答え：②平成3年

- ・初点灯から昭和39年→8人の職員が、時には家族とともに島に住み込んでいた。  
食べ物、水、学校の問題、真冬の厳寒との闘い
- ・昭和39年から平成3年→4人の職員が1週間交代で勤務  
大間埼1週間、尻屋埼1週間、むつ航路標識事務所1週間のローテ
- ・平成3年→無人化（見回り管理）  
ちなみに電源は、平成21年（2009年）から太陽電池化。  
cf白熱電球→メタルハライドランプ→LED光源  
LEDによって省エネ化できたので、太陽電池にすることができた

- ・さて、みなさん！津軽海峡は、太平洋でしょうか？日本海でしょうか？  
→答え：日本海

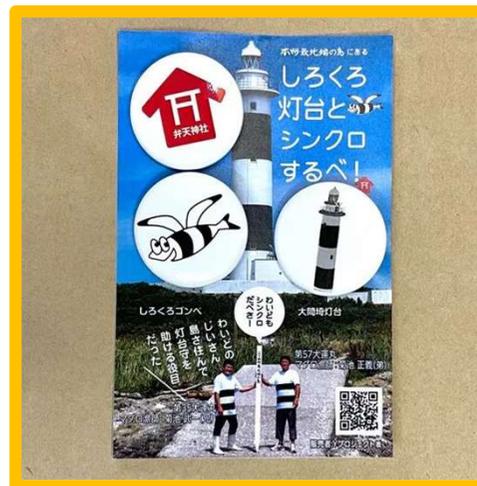
- 【フリップ見せながら、津軽海峡の端と端を説明】
- ・わずか17.5キロしかない国際海峡
  - 2007年のデータですが、1日あたり大型船35隻が行き交う過密航路
  - ・津軽海峡フェリーの航路は、ここを横切る
  - 車がガーガー通る国道を横切るような感じだそう
  - ・海の安全のために、津軽海峡の灯台は非常に重要なのですー

ちなみに、白神-龍飛：19.2キロ

<しろくろ灯台サイダー>



<しろくろ灯台缶バッジ>



<しろくろタオル>



本日  
運航中

しろくろ灯台と[シンクロクルーズ]  
本州最北端の島

ゴンベにあえるよ！

べんてんしま  
弁天島一周



# 漁船でクルージング



所要時間  
約 60 分

おひとり：2,000円 (小学生まで半額)

ここから歩いて  
10分の漁港から出航し、  
約30分のクルーズです。

乗船者に  
しろくろサイダー  
プレゼント



本州最北端の島にある  
しろくろ灯台と  
シンクロするべ！

本州最北端の島にある

本州最北端の地「大間崎」の本州最北端の島「弁天島」を観光に活用しよう!



# しろくろ灯台と シンクロするべ!

キャンペーン 2024  
9/14~10/31



「本州最北端の地」としてびいびい言わしてきた大間崎。その沖合600m先にある島「弁天島」、函館の街並みを背景に白黒くっきりそびえ立っているのが「大間崎灯台」です。泳いで行けそうって思うべき? クド瀬戸という激しい潮流や暗礁が点在する海域で、気象条件も悪いから漁船でもなかなか島に上陸できず、灯台が無人化してからはカモメとウミネコの楽園よ。大間崎から軽く眺めるしかなかったこの「しろくろ灯台」のこと、もっと知って仲良くしていきましょう!



弁天神社



大間崎灯台

### 「灯台とともに海の守神」

大間崎からもはつきり見える、真っ赤なお社。門口には正徳5年(1715年)の文字が。灯台ができるまでは、海の安全はひたすら弁天様に祈るしかなかった。津軽海峡が弁天神社の参道だから、今でも漁師たちは、漁船で通過するたびに手を合わせます。灯台と弁天様が対になって、100年前から海に生きる人の命を守ってる。

### 「日本の灯台50選」

江戸時代にも、外国の商船がよく沈没する危険地帯であった大間沖。大正10年(1921年)に初点灯を迎え、海難の歴史がようやく終息しました。以来、不自由な離島暮らしを耐えてきた灯台守のみなさんが、対岸の汐首岬まで17キロしかない過密な国際海峡の安全を守ってきた。昼間の海の上でもくっきり目立つよう白黒模様には。



この取り組みは、本州最北端リブランディング:本州最北端の地「大間崎」の本州最北端の島「弁天島」を観光に活用するための検証事業です。

主催:大間崎灯台活用コンソーシアム  
共催:日本財団 海と日本プロジェクト  
事務局:Yプロジェクト株式会社内  
電話:0175-37-5073 (平日9:00~16:00)

この事業は、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で実施しています。



### しろくろ灯台と 「シンクロフェス」

おんがく たべもの  
**先端 FES**  
2024.9.15 大間崎特設会場

たぶん、大間崎で初めてのフェスになるでしょう。曇りがやわらかい秋の良き日、津軽海峡の潮風にあたりながら、みんなて海の向こうの「しろくろ灯台」を愛する集いです。スペシャルな音楽や食べ物もありあり。人気者のマクロ漁師デュオも、自慢の海歌で盛り上げます。

1

### しろくろ灯台と 「シンクロスナップ」

しろくろ服で  
灯台と一緒に  
写真を撮ろう!

9月14日~10月31日  
SNSにアップお願いします。



大間崎で白黒なものを身に付けていれば、愉快的なシンクロ写真が簡単に撮れます。しろくろ灯台とよりシンクロするためには、ズームを使うのがミソ。SNSに投稿する際は、ぜひ「#しろくろ灯台」で。  
【撮影会】  
9月15日の先端フェスの日に、100人シンクロ撮影会決行。15:30に集合!!!

2

### しろくろ灯台と 「シンクロクルーズ」

しろくろ灯台の島  
弁天島を漁船で  
一周クルーズ!

9月14日・15日・16日  
各日11:00発 13:00発 14:30発



ベゴ岩、沖ノマ、ヘフリ崎…。弁天島の外周4キロには、わかっているだけで27カ所もの名称が付いています。周囲には岩礁やら入り組んだ潮の流れがあって、慣れ親しんだ漁師でなければ近づけない場所。さあ、漁船に乗っていぐど! 漁師の目になって、海からしろくろ灯台を味わい弁天様にお参りを。  
【要予約】当日10:00~大間崎で受付  
※天候により中止

3

### しろくろ灯台と 「シンクロフーズ」

しろくろドリンク  
しろくろフード  
しろくろメニュー

9月14日~10月31日



しろくろ灯台サイダーにしろくろマクカレー、弁天島で採った希少な島ひじきや島ぶのりにしましま海鮮丼、もちろんしましまソフトはマストだべ。大間崎でがんばっているお店が、よっしゃ!と考えて出してくれれます。しましまを食べ、灯台とシンクロだー!

【販売場所(予定)】●魚喰いの大間んぞく●大間観光土産センター●お食事処かもめ●潮さい●新洋丸店(あやちゃん号)●あけみちゃん号●土門商店●SEAFOODCAFE NAGISA●さつ丸商店

わいども  
シンクロ  
だべさ!

わがごの  
じいさん  
島を住んで  
灯台守を  
助ける役目だった



第35大連丸  
マクロ漁師・菊池武一(むすけ)

浜で泳いだり  
宮舎の風呂を  
入れてもらったり  
子どももいっぱい  
いっつも暑は  
遊んでましたあ



第57大連丸  
マクロ漁師・菊池正義(たけみ)



本州最北端の島にある  
しろくろ灯台とシンクロするべ!

# 突端 FES

2024.9.15 11:00~18:00

会場：大間崎  
青森県下北郡大間町大間大間平17-1

しろくろ灯台をバックに  
[シンクロステージ]スケジュール

- 13:00~ オープニング：津軽海峡海鳴り太鼓
- 13:30~ 大間高校吹奏楽部
- 14:00~ 祐川慧樹 サックス演奏
- 14:30~ 大間郷土芸能保存会の流し踊り
- 15:00~ ライブ：キヨシと先生の即席デュオ

しろくろ灯台と一緒に100人で  
写真を撮ろう!

あのマグロ漁師の  
人気演歌デュオ  
よし&カズ

ライブ 16:30

15:30

17:30 フェアレ

18:00 終了

しろくろ灯台の  
点灯を愛でよう!

この本州最北端の島

しろくろ服で  
ご来場の方  
総合案内にて

しろくろ灯台と  
シンクロするべ!

乗船者に  
しろくろ灯台  
プレゼント

本日 弁天島一周 所要時間 約60分  
運航中 クルージング  
おひとり：2,000円  
(小学生まで半額)

第35大連丸  
マグロ漁師・菊池武一(中)

第57大連丸  
マグロ漁師・菊池正典(左)

日本海 海と灯台プロジェクト

しろくろを食べて飲んで買って  
灯台とシンクロするべ!

- しろくろマグカレー 魚喰いの大間んぞく
- 弁天串 (マグロの心臓・青森、タコ) さつ丸商店
- しましま海鮮丼 <10食限定> SEAFOOD CAFE NAGISA
- しろくろソフト 潮さい
- しろくろ灯台サイダー 総合案内、大間観光土産センター、SEAFOOD CAFE NAGISA、あけみちゃん号、土門商店、海峡の店 マグロ屋
- 島ひじき、島ふのり あやちゃん号
- しましまタコ串 あけみちゃん号
- 寒ふのり 土門商店

本州最北端の碑

マグロモニュメント

石川啄木の碑

灯台缶バッジ  
★総合案内  
★大間観光土産センター  
★あけみちゃん号  
★土門商店

大間崎レストハウス

お食事処かもめ

大間牛串焼き★  
大間観光土産センター  
土門商店  
あやちゃん号  
あけみちゃん号

お食事処潮さい  
SEAFOOD CAFE NAGISA  
魚喰いの大間んぞく

大間崎 テントサイト

第1 P

突端 FES

# 大間埼灯台

おおまさきとうだい

## 本州最北端の島

## 弁天島の しろくろ灯台

■大間埼灯台データ  
 初点灯：大正 10 年（1921 年）11 月 1 日  
 灯台の高さ：25m※地上から灯台頂部まで  
 灯りの高さ：36m※海面から灯火の中心まで  
 灯質：群閃白光 毎 18 秒に 3 閃光  
 光度：実効光度 3,700 カンデラ  
 光達距離：12 海里（約 22km）

### 日本の灯台 50 選

○古来から、海流や霧、岩礁の影響で多くの船が沈没した大間沖、海難事故防止のために建てられた大間埼灯台は、大正10（1921）年初点灯。夜は光、昼は白黒の塔体で、対岸の汐首岬まで17.5kmしかない過密な国際海峡の安全を守っています。

○平成3年（1991年）までは、「灯台守」が不自由な離島暮らしをしながら灯台を保守した歴史も。1998年、全国3000基以上の灯台から投票で「日本の灯台50選」に選ばれました。

### 第四等水銀槽回転式フレネルレンズ



大間埼灯台で、初点灯の大正10年から平成11年までの約80年に渡り働き続けた投光器。後目を修めたこのレンズと付属品は、大間町が社団法人燈光会より貸与を受けて、北津町総合文化センター「ウイング」（青森県下北郡大間町大間内山 48-184）に展示されています。

### 点灯 100 周年記念にライトアップ



令和3年11月1日に、晴れて点灯100周年を迎えた大間埼灯台。外壁の白黒模様もくっきりと盛り替えられ、美しい姿でライトアップされました。一般公開されていない灯台の内部やレンズ、踊り場からの風景などは、VR画像で楽しむことができます。バーチャル探訪をぜひ！



### 大間町の公認キャラ「かもま〜る」

平成26年の海の日に、しろくろ灯台がある弁天島で生まれました。名前の由来は、町の島である「カモメ」と、スペイン語で海を意味する「mar（マール）」、町の名前「な」に「しろくろ灯台」と併べられ親しまれている大間埼灯台だから、かもま〜るの頭の上にもっさり乗っかっています！



### 灯台守たちの 過酷な離島暮らしを 支えた町民

菊池正義さん(右)は、令和6年初編りの一番マクロ漁師、兄の武一さん(左)も同じく人気マクロ漁師。2人の祖父である菊池政二さんは、昭和39年に隣に弁天島で暮らしながら、交代制で灯台を管理する職員たちの陸での行き来や、不便な離島での暮らしを助ける役目を負っていました。孫たちにとって弁天島は、スペシャルな遊び場。島のじーちゃん、暮らしや灯台の思い出が溢れ出てきます。



# 弁天島

べんてんじま



### しろくろ灯台と真っ赤な社

「本州最北端の地」大間崎。その沖合600m先にある周囲約4kmの島が、「本州最北端の島」弁天島です。島の周辺一帯は潮流が激しく、暗礁が点在する危険な海域。濃霧や吹雪のため針路を誤り座礁する船が少なくない難所です。その昔、島の沖で船が難破した場所に網を入れた漁師が、弁天様を引き上げ、島に祀るようになったのが弁天神社の始まり。以来、漁師たちは手を合わせてきました。白黒くっきり「大間埼灯台」と、真っ赤な社の弁天神社は、海を守る最強のバディなのです。

